



医学シリーズ (277)
喘息をよくし 治すために
喘息大学学長 清水 巍

277 温故知新 (おんこちしん)

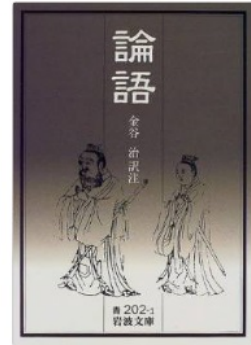
「えらく難しい言葉を並べ立てた」と言われるかもしれないですね。「故き(ふるき)を温ねて(たずねて)、新しきを知る」という意味だそうです。中国の論語の中に出てくる言葉で、孔子が「先生の資格として述べた言葉」です。「古いこと(昔のこと)よく学んだり、考えたりして、新しい知識や道理を得なければ、現在の事態よりよく対処することはできないし、先生の資格はない」というわけです。

私は末席を汚しているだけではありませんが、医師の資格を持って働いていますので、「先生」と呼ばれたりします。ですから、この孔子先生の教えを実行することが求められています。では、「わかば会員や喘息患者さん、関係者はどうか？」私はその人達と二人三脚で歩むことをしてきました。「患者さんこそ自分の主治医(先生)」との信念をモットーとしてきました。患者さんも先生、同じく「古きをたずねて、新しくを知る」を担って頂きたいのです。

第1は、風邪(カゼ)への対処法です。「カゼは万病の元」と言われますが、人間にとっては、昔からつきあっているウィルスによる最も多い病気です。喘息患者さんや COPD、じん肺の人にとっては大敵です。子どもの時にかかるのは、「それで免疫力をつけていく」と評価されたりするのですが、病気をかかえた一定の年齢に達した人には「呼吸機能低下や肺・気管支障害増強の一里塚」となるのです。

それを防ぐ手段の1つとして、城北病院や寺井病院では「風邪の粉薬」を私が城北病院に入る前から使っていました。47年前から使われてきました。それが今もって使われているのです。それだけでなく、風邪薬が山のように売られ、薬の量販店やテレビコマーシャルで宣伝されているのに、最近の患者さんからよく、「清水先生の出してくれる風邪薬を一服飲むとすぐ治る、症状がとれる」と評判が高まっています。ゼミや外来受診時にもらって試してみてください。遠方の方は、その薬でないとダメというわけではなく、「その人なりに合う風邪薬を、長い人生経験や長い斗病経験の中で探し、早目に対処することができる」といいのです。昔から「熱爛の玉

知温 新故



岩波文庫の「論語」表紙